

事業評価シート

番号 1340020 - 001

【1.基本情報】

事業名	次期クリーンセンター整備事業				
担当部名	環境部	担当課名	環境施設課		
未来地図政策	自然・地球環境保全の推進			政策コード	6 - 3 - 0 - 0
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成15年度～	年度	根拠法令 関連計画※	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	

【2.事業概要】

事業の目的	市内で発生する一般廃棄物は、掛洞プラント及び東部クリーンセンターの2施設で処理している。このうち昭和45年稼働の掛洞プラントは、稼働から40年以上経過し、老朽化が顕著となってきている。そこで、新たなクリーンセンターを建設し、一般廃棄物の安定的な処理を継続することを目的とする。	
事業の内容	循環型社会に適合する処理技術を導入し、環境への負荷の低減、エネルギーを有効利用できる新たなクリーンセンターの建設を検討する。	
事業の対象	何を	一般廃棄物の安定的な処理
	誰に (対象者・対象者数)	岐阜市民
	どのくらい (具体的数値で)	処理能力 350t/日程度予定
令和2年度 (実施内容)	建設候補地を選定し、地元説明に着手した。また、基本計画(案)を取りまとめた。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	16,484	520	26,520	780	25,350	780
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	16,484	520	26,520	780	25,350	780

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		0	3,303	4,532
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	基本計画策定	0	3,047	4,532
	事業用地の選定	0	256	0
減価償却費 【施設管理】※ (C)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
計(D)=B+C		0	3,303	4,532

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	16,484	29,823	29,882

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金	0	1,015	1,510
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	1,015	1,510

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	16,484	28,808	28,372

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	岐阜市民	岐阜市民	岐阜市民
受益者数	410,297	408,970	408,109
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	40	70	70

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	新ごみ焼却施設基本計画策定	単位	計画
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値			1
実績値			0

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	新ごみ焼却施設基本計画	単位	公表
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値			1
実績値			0
達成状況			×(未達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	①掛洞プラントは、稼働開始から40年以上経過しており、安定したごみ処理業務を継続するため、新施設の建設は必要な事業である。 ②一般廃棄物の処理は、基礎自治体の責務であり、市が主体的に進める必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	①次期クリーンセンター完成後は、安全かつ安定した一般廃棄物の処理に大きく寄与できる。 ②広域的視点として、岐阜羽島衛生施設組合の次期ごみ処理施設建設事業が進行しており、従来のごみ処理3箇所体制の継続を行う予定。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	次期クリーンセンター完成後は、安全かつ安定した一般廃棄物の処理が確保され、十分な効果が得られる見込みである。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	次期クリーンセンターの建設は、全ての岐阜市民にとって利益のあるものである。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状維持	一般廃棄物の処理を継続的・安定的・確実にを行うため、引き続き市が主体的に新施設の整備を進める必要がある。

事業評価シート

番号 1340020 - 002

【1.基本情報】

事業名	新リサイクルセンター整備事業				
担当部名	環境部	担当課名	環境施設課		
未来地図政策	自然・地球環境保全の推進			政策コード	6 - 3 - 0 - 0
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成26年度～	年度	根拠法令 関連計画※	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	

【2.事業概要】

事業の目的	現在のリサイクルセンター(カン・ビン・ペットボトル選別施設)は、稼働開始から20年以上が経過し、施設の老朽化やペットボトル排出量の増加により、現施設での処理が困難になりつつある。そこで、新たにカン・ビン・ペットボトル等の資源化施設を建設し、循環型社会の構築に資するとともに一般廃棄物の安定的な処理を継続することを目的とする。				
事業の内容	循環型社会を構築するとともに、カン・ビン・ペットボトル・プラスチック製容器包装を安定的に処理できる新たなリサイクルセンターを建設する。				
事業の対象	何を	一般廃棄物の安定的な処理			
	誰に (対象者・対象者数)	岐阜市民			
	どのくらい (具体的数値で)	年間処理量 カン 約1,300t ビン 約3,600t ペットボトル 約1,400t プラスチック製容器包装 約2,500t			
令和2年度 (実施内容)	令和3年度までの債務負担である施設建設工事および施工監理業務委託を実施している。また、建設地の分筆及び地目変更登記を実施した。				

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	32,968	1,040	44,200	1,300	42,250	1,300
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	32,968	1,040	44,200	1,300	42,250	1,300

(2)物にかかるコスト

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
直接経費【直接事業費】(B)	88,602	206,468	732,499
直接事業費の主な内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目			
建設工事等	82,085	206,116	731,558
土砂搬入	5,975	0	0
分筆登記等	230	0	770
減価償却費【施設管理】※(C)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
計(D)=B+C	88,602	206,468	732,499

(3)総コスト

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
総事業費(E)=A+D	121,570	250,668	774,749

【4.収入】

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金	1,073	28,061	277,307
県支出金			
市債	68,100	145,100	407,200
使用料・手数料			
その他			
計(F)	69,173	173,161	684,507

【5.収支】

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
市負担額一般財源(E-F)	52,397	77,507	90,242

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	岐阜市民	岐阜市民	岐阜市民
受益者数	410,297	408,970	408,109
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	128	190	221

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	カン・ビン・ペットボトル・その他プラスチック製容器包装類の処理設備	単位	設備
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値			1
実績値			0

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	カン・ビン・ペットボトル・その他プラスチック製容器包装類の処理量	単位	t
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値			—
実績値			—
達成状況			—

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	①現施設の老朽化及び処理能力不足により、処理が困難になってきていることから、新施設の建設は必要な事業である。 ②一般廃棄物の処理は、基礎自治体の責務であり、市が主体的に進める必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	①環境負荷の低減を図り、安定的に処理できる施設を建設することにより、循環型社会の構築に資する。 ②カン・ビン・ペットボトル・プラスチック製容器包装を安定的に処理するためには、他に方法はない。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	新施設が稼働し、カン・ビン・ペットボトル・プラスチック製容器包装が安定的に処理されることで、リサイクル率の向上及び最終処分量の削減等の効果が得られる見込みである。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	市内唯一の施設の建替えであり、市民への公平性は高いものである。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	新施設の建設は、市内唯一の現施設に代わるものであり、必要な施設であることから、引き続き本事業を推進する。

事業評価シート

番号 1340020 - 003

【1.基本情報】

事業名	東部クリーンセンター旧粗大ごみ処理施設解体及び跡地整備事業				
担当部名	環境部	担当課名	環境施設課		
未来地図政策	自然・地球環境保全の推進			政策コード	6 - 3 - 0 - 0
実施方法	直営	補助の種類※		実施主体	岐阜市
実施期間	令和2 年度～	令和4 年度	根拠法令 関連計画※	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	

【2.事業概要】

事業の目的	東部クリーンセンター旧粗大ごみ処理施設を解体し、解体跡地の効率的な土地利用に資することを目的とする。				
事業の内容	東部クリーンセンター新粗大ごみ処理施設の整備完了に伴い、旧粗大ごみ処理施設の解体及び跡地整備を行う。				
事業の 対象	何を	一般廃棄物の処理			
	誰に (対象者・対象者数)	岐阜市民			
	どのくらい (具体的 数値で)	延床面積 4,253㎡			
令和2年度 (実施内容)	本契約を締結した。なお、解体工事は令和4年3月までに完了する予定である。				

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	0		0		16,900	520
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	0	0	0	0	16,900	520

(2)物にかかるコスト

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
直接経費 【直接事業費】 (B)			0
直接事業費の主な内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目			
減価償却費 【施設管理】※ (C)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
計(D)=B+C	0	0	0

(3)総コスト

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
総事業費(E) =A+D	0	0	16,900

【4.収入】

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
収入内訳			
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
市負担額一般 財源(E-F)	0	0	16,900

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	-	-	岐阜市民
受益者数	-	-	408,109
受益者負担額(千円)	-	-	0
受益者負担率(%)			0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)			41

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	旧粗大ごみ処理施設の解体及び跡地整備	単位	m ²
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	-	-	4,253
実績値	-	-	0

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	旧粗大ごみ処理施設の解体及び跡地整備	単位	m ²
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	-	-	4,253
実績値	-	-	0
達成状況	—	—	×(未達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	中	①旧粗大ごみ処理施設の解体及び跡地整備は急務である。 ②粗大ごみの処理は、基礎自治体の責務であり、市が主体的に進める必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	①解体跡地を整備することで、東部クリーンセンターの効率的な土地利用に資する。 ②安全かつ安定した粗大ごみ処理を確保するためには、他に方法はない。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	解体跡地の整備により、東部クリーンセンターの土地利用の効果が得られる見込みである。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	全市民を対象とした解体跡地の整備により、市民への公平性は高いものである。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状維持	解体跡地の有効利用に向け、旧粗大ごみ処理施設の解体及び跡地整備を行う。